

平成 30 年度第 1 回大阪府立江之子島文化芸術創造センター指定管理者評価委員会 議事概要

日 時：平成 30 年 7 月 18 日（水）15：00～17:00

場 所：大阪府立江之子島文化芸術創造センター 2 階 多目的ルーム 8

出席者：服部委員長、佐藤委員、坪池委員、米山委員、指定管理者、事務局

【議事概要】

1 開会

2 議題

(1) 評価の方法及び実施時期について

(2) 評価基準（案）について

(3) 江之子島文化芸術創造センターの運営状況について

3 閉会

◎主な意見等

服部委員長：これまでに事業の分析、検討、ブラッシュアップがされているはず。enoco ならではの取組みが実施されているか、またそれらがどのように発信され、地域に活用されているかも伺いたい。

指定管理者：カフェの運用が 8 月に始まる予定。行政サロンや仕事バーなど、カフェ事業者のみならず、enoco 側も多様なメニューを提案しながら、空間には作品を飾り、来訪者に楽しんでもらうなど、WIN-WIN の関係で進めていきたい。委員長から、プラットフォーム事業のスキーム化、見える化を、と言われていたので、意識して取り組んできた。

指定管理者：サントリーから学芸員の人材を受け入れ、コレクション活用力が強化されている。「enoco おしゃべり美術館」というコレクション展を開催し、週末ごとに対話型鑑賞会を開催する予定の他、カフェ空間で作品の対話型鑑賞サロンを実施するなど検討中。コレクション・キャラバンでの実績を館内での活動にフィードバックする。コレクション・キャラバンでは、初めて視覚支援学校に行く予定。

服部委員長：ソーシャル系の動きが目立ってきたという感触を持った。ただ、事業数がかかなり多いので、担当者の負担が気になるところでもある。

坪池委員：事業がかかなり体系化されてきた。指定管理者の間で問題意識の共有がきちんとさ

れている。enoco の学校の学科名等で“アウトプット学科”のような名称が使われているが、利用者の立場にたった分かり易い名称にした方がいい。WEBサイトも大切な情報が下の層に入っていたりするので、事業を体系化したものを外にどう伝えるかを工夫した方がいいのではないかな。

まちびらきのように地域と一緒に取り組むと動員も飛躍的に増えるので、enoco の活動を広げる上でとても有効だと思う。町の誕生日として毎年やる、というのはベタだけど効果的だと思う。またイベントの時に enoco のサポーターはお揃いのバンダナ等を身につけるなど、見てすぐに enoco のスタッフだと分かるようにするのもベタだけど有効だと思う。

活用点数の数え方については enoco の主張する通りだと考える。貸し出した作品数を数えるのではなく、対話型鑑賞なら参加した人が20人いれば、20倍にしてもいくらい質が異なる。所蔵作品は府民の財産なので、府民向けに著作権処理を済ませた作品画像を“どうぞお使いください”と提供する無料サービスがあってもいいし、そういう活用の仕方もある。活用度を貸し出し点数だけで評価するのではなく、府民の財産として利活用する方法を提案してもらい、それに見合った評価をすればいいのではないかな。

服部委員長：ニュースレターでのコレクション紹介コーナーが良い。Meets などの雑誌で、貸出事業 PR とともに作品の紹介ページ等、連載などにもっていければ最高。

指定管理者：現在、作品を SNS や WEB 等で紹介したものは、活用点数に含んでいない。また、活用点数に限らず、広報の評価基準であるメディア掲載には、いわゆる紙媒体に限っており、enoco の事業やイベントを SNS や WEB 等で取り上げてもらっても数に入っていない。

服部委員長：SNS、WEB 等は数に加算していいと思う。

米山委員：周囲のインフラが整い、enoco の体制・施策も整ってきて、順調に推移しているという印象。事業説明等は具体的で分かりやすかった。SNSのアカウントは持っているのか。

指定管理者：Twitter、Facebook、Instagram でアカウントを持っている。

米山委員：何を見れば、それらのSNSにアクセスできるのか。目に触れる機会を工夫してほしい。地元のケーブルテレビなどで取り上げてもらい、感じがいいなと思ってもらえるようなことも大切ではないかな。SNSで取り上げてもらってもカウントされないという

ことだが、いいPRに繋がってくると思う。

イベントに関わる人の安全対策、リスクマネジメントも重要。災害時等に提供できるスペースを用意するなどして、付加価値をつけるのもよいのではないか。

評価基準の収支額は、どの項目を足しているのか、書き方を工夫した方がよいのでは。

佐藤委員:具体的に動いてきた印象。参加者の要望を聞いてフィードバックをすることも大切ではないか。学校事業について、体系はすっきりしたが、ネーミングについては今後の改善を見たい。

活用点数については、対話型鑑賞でのカウントも含める点についてOKである。

減免について、収支計画では減免があることを予想したものではないと思う。適正な減免をしたかどうかだけでなく、減免した内容までしっかりと評価されるよう基準を持った方がよい。

坪池委員:もしニーズがあるなら、会議室を1時間単位で貸出しするなど、貸出し方法の工夫で稼働率が上がることもある。

事務局:条例で各部屋の上限額が決まっている。

坪池委員:展示室の1週間の貸出しはきつい。1日だけの貸出しなど検討必要。

指定管理者:利用開始希望日の3ヶ月前の時点で仮申込みがなく、空いている場合は、1日単位での利用も受付けている。実際のところ、パフォーマンスやイベント向けの数日の貸出しなどを想定していかなければ、展覧会だけでは立ち行かなくなっていることはある。

坪池委員:展示室の活用については、市民コレクターという都市の資源を活用する方法がある。市民はそれをかっこよく見せる方法を知らない。うまくプロジェクト化し、展示の仕方も指導し、ノウハウを伝授する。enocoの学校の授業にしてもいい。

服部委員長:非常にがんばっているenocoにエールを送るものにしたい。“文化芸術の創造”から21世紀型のあり方を体現したものになってきている。ソーシャリティの高いプロジェクトや子ども向けのものまで多様であり、幅広い世代にリーチしている。前回まではenocoの活動を一般的に周知させることを課題だとしていたが、そこまで一般向けのことをやる必要があるか。ロコミで広がっていくのではないだろうか。活動のアーカイブをどのように発信していくのか。その手法を検討することで、

ファンの定着を目指してほしい。

米山委員：よりよいまちづくりのために芸術を生かし、興味のない人にも広げてほしい。

坪池委員：タワーマンションのコミュニティづくりは全国的な課題になっている。西区と連携し、enoco が媒介となるようなタワーマンションのコミュニティづくりのモデル事業を立ち上げることができれば、面白い。防災を含めたようなモデル事業をつくれれば、他の地域でも展開できる。フランスのラ・ヴィレットのマイクロ・フォーリー（超小型の文化施設）など参考になる。タワーマンションのコミュニティにマイクロ・フォーリーがあり、それが enoco である、という発想を持つと楽しい。

佐藤委員：活動報告で写真を見たが、参加者の笑顔がとてもよい。ポッセ（＝enoco の活動を共に支える仲間）やファンが増えるようがんばってほしい。負担が増えてしまうが…。

服部委員長：委員の発言のあった評価基準の変更については、府と委員長とで検討する。